

一般質問



武辺 議員

○ふるさと教育の必要性とその取り組み事例について

【質】ふるさと教育は大変意義のある教育であると令和7年9月定例会で答弁がありました。その具体的な内容を伺います。

【学校教育課長】小学校では農業体験や漁業体験等を含むふるさと産業地域における福祉問題、地域の伝統文化の学習などを行い、中学校ではふるさと活性化を意識した学習に発展し、まちづくりや地域活性化のために自分たちにできることを考える学習、地域の伝統文化を継承する学習などを行っています。

【質】現存する「松浦の民話」には旧松浦市の民話のみが掲載されています。福島・鷹島地域を含めた民話の再編について、検討された内容を伺います。

【生涯学習課長】令和3年度に各区長会に出向き、民話について詳しい方の紹介を依頼しましたが、有益な情報は得られず、その後も機会を見て情報収集に努めました。今後は民話に限らず、言い伝え・伝承も含めて研究家の方々の意見を拝聴したいと考えています。

【質】再編については、今やらなければならぬと思いますが、考えを伺います。

【教育長】松浦市全体的子どもたちの心の教育やふるさと教育の充実のためにも、福島、鷹島の内容も含め、拡充できるように進めます。

○第三期松浦市子ども・子育て支援事業計画の進行管理状況について

【質】みんなの子育て広場URACCの移転場所について、また、同施設と児童館、志佐こどものいえは設置目的が類似し差別化が図られていないと思われる、これらの施設を集約した子育て支援施設が必要だと考えますが、見解を伺います。

【市長】「ともだビジョン2026」で、立地適正化計画に基づく中心市街地の活性化、官民連携による交流とにぎわいを創造する拠点整備を掲げており、子どもに関する施設の在り方について、効率的な運営を図りながら、まちなかににぎわいづくりと併せて、子育て世代のニーズに対応できる施設の整備を行いたいと考えています。私に与えていただいた4年間の任期中に実現したいので、スピード感をもって対応していきます。

一般質問



宮田 議員

○チャレンジを推進する市政のあり方について

【質】友田市長の3期目の市政運営において挑戦をどのように位置づけているか伺います。

【市長】市政運営における挑戦の位置づけについては、全国的な課題である人口減少にあらがう措置などを含め、未来のために必要な措置を講じることと考えており、将来を見据えて先例のない取り組みを行うこと、見えないものを先駆けて行うことが大切であると考えています。

【質】「ともだビジョン2026」の市民のチャレンジを応援する仕組みづくりについて伺います。

【市長】市民のまちづくりについて行政として支援をしてきたもので、既に事業が終了していますが、市政の推進に資する取り組みをする場合には市として応援する仕組みができれば、いか掲げているところで、今後、制度設計をしていかなければなりません。

○魅力発信と市民による自発的な情報発信について

【質】市民に対する情報発信をどのよ

うに取り組んでいるか伺います。

【政策企画課長】ホームページをはじめ、市報、SNSなど、さまざまな方法で情報発信を行っており、市民がより詳細な情報を取得できるようにしています。さらに、長崎新聞に有料ですが、県内で唯一、情報発信枠を確保し、市民をはじめとして県内の方々へ本市のイベント等の情報提供に努めています。

【質】「ともだビジョン2026」の中で、観光振興、和牛振興、商工業の振興、企業誘致など、本市のイメージなどが影響し得るものは多いと考えますが、市長の方針や考えの中で、個人のSNSの力をどう捉えているか伺います。

【市長】近年はさまざまな場面で、SNSの情報が拡散し、いい面、悪い面ありますが広がり知られていき、それが消費行動になり、その場所へ行ってみたくなる。そういう観点としてSNSが威力を発揮していることは十分承知をしています。SNSをこれからもっと活用し、市役所としての取り組み、課題はありますが、各課において、そして、市全体として、この取り組みが進められるように、トップリーダーとしてしっかりと進めていきたいと思っています。